

# 立命館経済學

第 35 卷 第 6 号

1987年2月

---

## 内 容

### 論 説

- 輸出・輸入物価に対する為替変動の  
寄与度・寄与率……………関 彌 三 郎 1
- 経済発展論（下）……………小 野 進 17  
——A・ガーシェンクロンとA・マーシャル  
そして日本の経済発展への適用とその限界——
- 外国為替について……………岩 田 勝 雄 58

### 紹 介

- Richard F. Kahn 『Keynes 「一般理論」  
への道程』(3)……………磯 部 智 也 78
- 共同研究室…………… 114

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第35巻・第4号

|                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 塩田庄兵衛教授退任記念論文集の刊行にさいして…………… | 小野一郎  |
| 女性研究者運動の歴史と課題……………          | 坂東昌子  |
| 労働運動の現段階と「未組織の組織化」問題……………   | 大木一訓  |
| ——一つの覚え書き——                 |       |
| 地域生協の課題……………                | 田井修司  |
| ——事業経営の視点から——               |       |
| 産業構造の「転換」と労働組合運動の課題……………    | 戸木田嘉久 |
| ——多国籍企業化, ME「合理化」とも関連して——   |       |
| 職場労使関係と労働組合運動……………          | 三好正巳  |
| 地方財政改革「運動」の変化とその背景……………     | 坂野光俊  |
| 核兵器廃絶の展望と日本の原水爆禁止運動……………    | 安齋育郎  |
| 障害者共同作業所づくり運動と福祉政策……………     | 上掛利博  |
| 社会・労働運動を学んで40年……………         | 塩田庄兵衛 |

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第35巻・第5号

|   |       |
|---|-------|
| 関 彌三郎教授退任記念論文集の刊行にさいして……………                   | 小野一郎  |
| プリントの統計学理論について……………                           | 有田正三  |
| 初期の「統計法」の一典型……………                             | 浦田昌計  |
| ——1897年のハンガリー統計局法——                           |       |
| H. グローマンの統計方法論……………                           | 長屋政勝  |
| 線型回帰分析の推定誤差と係数の信頼性……………                       | 稲葉和夫  |
| サービス経済論の系譜的展望……………                            | 鈴木登   |
| ——その理論と計測をめぐる諸問題——                            |       |
| 経済発展論(上)……………                                 | 小野進   |
| ——A・ガーシェンクロンとA・マーシャル<br>そして日本の経済発展への適用とその限界—— |       |
| ケインズ経済学における理論と政策……………                         | 松川周二  |
| ——その形成と展開についての覚え書き——                          |       |
| ケインズの道徳哲学と賢人思想……………                           | 大西広   |
| ——「若き日の信条」におけるケインズの「反省」——                     |       |
| 日本の統計と社会統計学……………                              | 関 彌三郎 |

発行所 立命館大学経済学会